

K O Σ M O Σ

Vol. 10, No. 2 (No.30)1975. 10. 10

私と図書館

後藤辰男

職業柄、私も人並に図書館を利用するが、そういう私でも図書館はいつも些か重々しく厳めしく何か近寄り難い存在である。気心も知れず言葉も通じにくい異国に踏み込む印象、いや更にこの印象に面接質問を受けるときの足のすくむ感じを付け加えた気分に入るのである。

一体何が理由でこういう気分になるのか今もって不可解なところがあるが、判っている限りで言えば、索引カードをさばく面倒（とくに目的の本がないときの徒労感と周章狼狽）、おずおずとつい手が震える感じになってしまう手続きカードの提出。館員がとりつくしまもないような時は、この種のパニックは極点に達するのだ。綜じて言ってみれば多くの場合私の図書館のイメージには、いつも秘仏をやっと拝ませて貰うときのものものしさ窮屈さがつきまとうのである。

こんなことからか、私は開架方式をどちらかというと好ましく思う傾向が強い。結局は貸本屋趣味ではないかと言われそうであるが、何といっても自分の家の書棚を前にしているときのような気易さがとても貴重だ。索引カード方式は、常に一点集中主義で目的の本に驀進するといったモノマニーの傾向が顕著だが、開架方式には逍遙派的優雅がある。

これは閉鎖主義と開放主義という心的傾向の問題でもあるだろう。どちらにしても、図書館内の仕組みとして研究すれば一長一短はあるのだろうが、一人でも多く図書館利用者を増やすことが仕事の一つであってみれば、単に心的傾向とのみ断じておく訳にはいくまい。かつての図書館のもつ僧院的雰囲気は、自らの心の中に保ちつづけていただき在任中は出来るだけ、貸本屋の気軽さを助長したいものと念じている。そして更にはレファレンス部門の充実を計りたいと思うことも切である。いつまでたっても図書館利用の初心者に止まっているらしい私の、これは、たわ言と言うべきであろうか？

(図書館長)

雑誌の欠号について	2
続・私の奨める	
一冊の本	3
ドイツの大学改革と	
大学図書館	4
本学に学んだ人々	
④—勝 承夫	5
投書箱から	7
日誌(6月～9月)	8
特集号・原稿募集の	
お知らせ	8

雑誌の欠号について

開架雑誌は勿論のこと、学術雑誌の利用が年々増加している。そこで、当然のことながら色々な問題が生じてきています。その中で一番大きな問題は欠号の事です。これは利用者にとっても、雑誌係にとっても非常にやっかいなことです。そこで、この欠号の生ずる原因を少し（特に購入雑誌について）考えてみたいと思います。

1) 外国雑誌の場合

外国雑誌は日本の取次店を通じて外国の発行所に注文します。発行所から日本の図書館に直送されてくる。その場合、発行所のミスと思はれるものと、単純な図書館側のミスと思はれるものとあります。

- a) 送付先住所の誤記
- b) 輸送中の破損、紛失
- c) 事務上の手続ミス

2) 国内雑誌の場合

国内雑誌は書店と、発行所からの直送によるものがあります。この場合は事務上の手続さえ誤らないなら欠号は生じない。

上記の事が欠号の生じる主要な原因と考えられます。また雑誌係が細心の注意をはらっていても欠号が生じてしまうこともある。

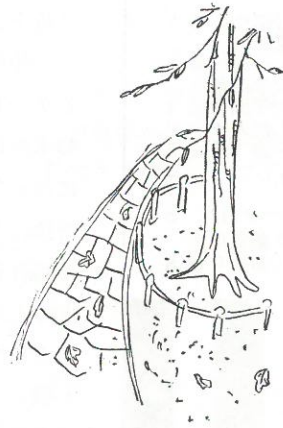
欠号が生じた場合の対策として、外国雑誌の場合は発行されてから3ヶ月までだったら発行所にクレームをつけられるが、当館の場合は船便だから輸送日数の問題などがあり、いつの時点で、こ

の巻、号が欠号だと決めるのが難しい。

そのため係が日を定めて定期的にチェックカードを調査し、欠号と分ったら早急に業者に通告しオリジナル雑誌を入手するようにするとか、それが困難になった場合は、それを所蔵する機関、団体等複写の依頼をするとか、他機関、団体の重複本配布に申込んで入手するとかの方法で欠号を補充していきたいと考えている。

国内雑誌は外国雑誌と比較して発行されてから1年くらいまではオリジナルで容易に入手できるが、入手できないものは外国雑誌と同様の方法で補充していくか、古本屋で購入する方法もあります。

以上欠号の問題とその対策について簡単に述べてみました。今後雑誌部門を利用者のためになお一層の充実をはかりたいと思っている。(雑誌係)



分館より

夏期休暇中の図書館利用調査

わが分館ではこの程、本年度夏期休暇中の利用状況について調査した。7月11日から9月6日までの休暇中の開館日数は30日。これは7月が16日、8月（便宜上9月6日までを含む）が14日で昨年より4日ほど多い。貸出冊数は、7月は学生が185冊、教職員が74冊、8月は学生が66冊、教職員が65冊で、合計が学生251冊、教職員139冊となり、昨年の学生198冊、教職員75冊をいくら

か上回る結果となった。これは開館日数が昨年より多かった為でもあるだろう。また、利用者の数については、11時と2時に人数の統計をとった。これによると、11時には7月が176人（一日平均11人）、8月は63人（同4.5人）が利用している。2時には、7月が148人（同9.25人）、8月は65人（同4.6人）が利用していることになる。数から見ればけっこう多い人数ではない。

最後に、学外者の利用人数は合計11人であった。いずれも大学付近の民間研究機関の人々であった。以上の結果を今後よく検討し、サービス向上をはかりたいと思う。(小林)

続・私の奨める一冊の本

カール・マルクス著

『資本論』全三部

長谷部文雄訳 青木文庫・角川文庫・
河出書房

マルクス・エンゲルス全集

国民文庫 全9冊 大月書店

最近『不滅の資本論』（ア・ヴェ・ウローエヴァ著・佐藤金三郎訳、大月書店）という本が出版されたが、まことに『資本論』は人類とともに不滅であると思う。なるほど我々は、マルクスが解明した十九世紀の六、七〇年代の自由競争にもとづく産業資本主義ではなくて、二十世紀の独占資本主義ないし帝国主義に、とくに一九三〇年頃からの国家独占資本主義のもとに生きている。だから『資本論』の理論はこの段階まで拡充せねばならない。しかしそれに応えうる労作は今日までない。レーニンの『資本主義の最高の段階としての帝国主義』（一九一六年）は確かに、マルクス以後のマルクス経済学の発展の金字塔であるが、これは事実分析の書であって理論の書ではない。

独占資本主義の核心的範疇は独占利潤と独占価格である。これについては十数年前に平瀬巳之吉教授が『独占資本主義の経済理論』（一九五九年・未来社）を出版され（これは通説たる独占利潤流通利潤論の極端化である）、最近本間要一郎教授が『競争と独占』（一九七四年・新評論）を公刊されたが、これは独占理論に関する限り十数年前に『現代帝国主義講座』第V巻（一九六三年）に発表された「独占価格・独占利潤論」を整備されただけで基本的見解は変わっていない。（これこそ典型的な流通利潤論であり、恐らく経済学界の多数派の見解であろう。）これらに対して故白杉庄一郎博士は『独占理論の研究』（一九六一年・ミネルヴァ書房）を公刊され独占的剰余価値論（独占利潤の基本的源泉を初めて生産過程に求める生産論的独占利潤論）を展開されたが、その僅か二カ月後に五十一歳の若さで急逝されたために、いつの日か書きあげたいと念願されていた『独占資

本論』は、ただ断片的な遺稿だけが残っているにすぎない。私も私なりにこの独占的剰余価値論の修正的發展を目指して本学の『経済経営論集』に六つの論文発表をしてきたが、まだまだ未熟であり全面的に書き直さねばならないと思う。

本題に立ち返って、独占資本主義ないし国家独占資本主義でもその基礎にマルクスが解明したいわば純粋資本主義があるのであり、『資本論』はもちろん今日も生きている。

そればかりではない。もし全世界が社会主義に移行した後も資本論が読まれなくなるとは思えない。世界最初の社会主義国たるソ連邦の国祖レーニンは、マルクス＝エンゲルスに学んで自己の理論を樹立したのであり、マルクス主義なくしてレーニン主義はありえない。又共産主義社会の基本的法則を初めて明らかにしたのはマルクスの『ゴータ綱領批判』（一八九一年）であり、レーニンはその理論を發展させて『国家と革命』（一九一七年）において社会主義および共産主義社会の基本的法則を展開したのである。今日の社会主義経済学は『資本論』の方法に学びつつ、五十余年にわたる社会主義経済の体験を理論化したものであって、くり返すことになるが全世界が社会主義に移行した後も、『資本論』が不要になることは決してないと思う。

私が本学の全学生諸君に訴えたいことは、在学四年間の中に『資本論』の全三部を翻訳でよいから読了してほしいということである。一切の註釈書や研究書は必要ない。それより『資本論』を読むべきだ。マルクスはプロレタリアートのためにできるかぎり平明に書いたのであり、インテリである諸君にとって難しいはずがない。もちろん専門によって夫々必読の書物があるだろう。その他サークル活動クラブ活動もあるだろう。しかし今諸君がいくら忙しいといっても実社会に入ってからよりは時間のゆとりがあるはずだ。学生時代に読まないで卒業後に読むなどということは不可能だ。まして日本も今や民主革命（決して社会主義革命ではない。それは次の段階だ）の前夜にある。この変革に驚くことなくそれを予見しうるためにも、『資本論』は絶対に必読の書である。

松田 弘三（経営学部教授）

（本号はぶらざでりぶろは休ませさせていただきます）



ドイツの大学改革と大学図書館

—西ベルリン滞在中の見聞から—

小 倉 欣 一

昨秋6年ぶりの西ドイツ再訪から帰国したが、百聞は一見にしかず、60年代後半から70年代にかけてのこの国の変化はきわめて大きく、強烈な印象をうけた。かつては考えられなかった社民党の政権獲得、ブランド首相の東方政策による東西緊張の緩和、EC随一の経済的繁栄、社会の流動化・大衆化現象の進展など——この状況下で、大学では、学生の急増、マスプロ教育の開始とともに、周知の大規模な学生反乱が発生し文教自治権をもつ各州ごとに、思い切った大学改革が遂行されていた。このたび招待をうけたベルリン自由大学は、その急先鋒であり、一つのモデル・ケースとして名高い。すなわち、教職員のポストを拡充するとともに、中世以来のヨーロッパ大学に伝統的な学部組織を解体して、26専攻6研究所に再編成し、1～2年任期の名誉職的な学長に代えて、7年任期の新総長に、当時31歳の社会学助手クライビヒを選出した。そして、各専攻では、旧来の講座制と教授会を廃止し、学生3名、助手・助教授4名、事務職員1名と教授7名の代表者からなる評議会を設けた。この大学は、第2次大戦後のいわゆる冷戦下、ソ連軍隊による西ベルリン封鎖のさなか、フンボルト大学（旧ベルリン大学、1946年再開）から放校処分をうけた学生生活動家が中心となって、アメリカ占領地区ダーレムに創設されたという事情のため、当初から学生が大学の運営に関与していたが、改革は、この方向をいっそう徹底させたものといってよい。もちろん、そのプロセスにあって、いや現在もなお、さまざまな議論が戦わされ、功罪について最終的な判断を下すのは、まだ早い。私自身は、しかし、2カ年の見聞から、この改革を基本的に支持している。その理由は、①一般大衆が生きてゆくために、ますます高度の知識を切実に求めるというまさに世界的な趨勢のなかで、ドイツの大学組織は、あまりにも旧態依然としたエリート養成機関にとどまっていたこと、②大衆化した大学にあって、社会

変動の影響をもっとも強く、かつ直接に受けざるをえない学生に、大学の意思決定への恒常的な参加が、ともかく制度的に保障されていること、③講座制の廃止と教授および助教授・助手ポストの大巾な増加によって、若手研究者の、より自由にして創造的な活動の余地が広がり、じっさい私の専門分野でも、そこから大胆な新領域の開拓がはじめられていることなどである。

それでは、この大学改革と大学図書館は、どんな関係にあったのだろうか。端的に言って、図書館は、その役割をますます増し、運営上の改革と工夫とが不可避となった。そのため、中央図書館には最高決議機関として、学生1名、助手・助教授1名、教授2名、それに館長と館員1名からなる常設委員会がおかれ、それぞれの意向を反映させる場がつけられた。図書の収集については、以前からの中央図書館と研究室との二元主義を踏襲したが、後者は、合体して、専攻ごとの共同図書室にまとまりつつある。しかしながら、図書館の充実は、その性質上、そもそも百年の計に待たなければならない。急激に膨張した大学にあって、大量の需要と多様化した利用者の関心に、収書がただちに追いつく筈がない。そのうえ、自由大学は、たった20数年の歴史をもつにすぎない。そこで現在の能力を何倍にも発揮させる手段として、レファレンスと図書館の間の相互貸借制度がフルに活用されている。中央図書館のカード室には、きわめて有能なレファレンス係がおり、即座に適切な情報と指示を与え、必要に応じて関係部門の専門司書と連絡をとってくれる。しかし利用者が、そこにある中央図書館と全学の蔵書目録や西ベルリンの公共・私立図書館のカードに求める図書を発見できない場合、所定の手続きをとるならば、約2週間で西ドイツの、さらにはもっと時間がかかるが外国の図書館からの借覧が可能となる。私は、すでに、かつての留学体験から「図書館ニュース」第9号（1968年4月10日発行）で、

このシステムの利点を紹介し、専門司書制度とともに、本学図書館での採用を希望した。日本の大学図書館の間でも幸いその立て前になっている由なので、改めてここに、後藤館長はじめ館員諸氏の実施への意欲と英断に、そして関係当局の積極的な支援に期待したい。

以上のように、ベルリン自由大学の例から、大学改革と大学図書館のあり方とは、じつは密接な関係をもつことがわかる。わが東洋大学も磯村学長のもと、新たな構想で学園づくりに着手すると聞く。そこで最後に、ともすれば軽視されがちな図書館の重要性をもう一度強調して、擱筆したいと思う。

(経済学部助教授・経済史担当)

《本学に学んだ人々》 —⑤—

勝 承 夫

うしろ向き前向き

私がいた頃の報知新聞はいまのようなスポーツ紙でなく、普通の新聞、つまり朝日や毎日のように政治、社会、経済と一般の記事を扱う新聞だった。入社したのは大正天皇の御大葬の日だったから昭和二年の二月の何日かで、そのときは通信部といって地方版の記者、それから十ヶ月名古屋支局にいて本社に社会部に帰った。

その時の社会部長は、つい最近亡くなった御手洗辰雄氏で、名社会部長と謳われた荒っぽい威勢のいい人だった。ところがどこにでもある経営陣のクーデターのようなもので、この人を失い、それから新しい社会部長になった。おとなしい遠慮がちの人で叱られるなどということは殆どなかったが、欠点は思い出ばなしが好きなことであった。だから社会面の続きものの企画も「写真の思い出」「第一号物語」というようにうしろ向きの回顧談が多くなった。最近、週刊朝日が明治の写真を集めて展覧会までやったが、当時もあれで読者の興味を集めたが、若い私はどうも食い足らなかった。新聞記者はニュースを追い、未来を洞察する精神が必要だというプリンシプルを持っていたからである。

若い時はおそろしい。それを社会部会の席上で

ぶちまけた。何人かの賛成者があり、部長にもたしかに手応えがあったように思えた。ところが翌朝思いがけない事件が起きた。社会部長が行方不明になったというのである。随分気の弱い人もあるもので、翌朝家を出たまま消息を断ったというニュースが伝わった。私は大いに責任を感じたが、さて叱られる筋合いのものでもなかった。

一日が過ぎ、二日が過ぎ、家族の心配の様相が伝えられると私も心が痛んだ。どこからも家族に連絡がないというので、不吉な連想まで生んで編輯局としても捜索の手をのばした。ところが一週間ほどして山梨県境の美女谷温泉というところにいることが判って親しい人が迎えにいった。そして連れ帰ってこの事件は着落し、部長は変わった。

私はそんなことがあってから、どうも思い出ばなしをしたり書いたりすることを好まない。気がとがめるのである。しないことにしているといった方がいい。古稀をすぎても。

(詩人・本学理事長)

~~~~~  
 著作：詩集一惑星、朝の微風、白い馬、航路、金子光晴・陶山篤太郎・井上康文・尾崎喜八・中西悟堂・勝承夫共著詩集一「篝火」  
 感想集一文章の技術、若き日の夢  
 合唱曲集一若い合唱、その他多くの歌曲・童謡の詩

### 燈台もり

作曲 勝承夫 作詞 イギリス 曲

しこおれるつき一かげそらにさへみ  
 まはげしきあめ一かぜきたのうへみ  
 てにまふゆのあならなみ  
 すけりくおじまうおそもえよと  
 うだいまもるひとのこ

## 私大図書館協会大会に出席して

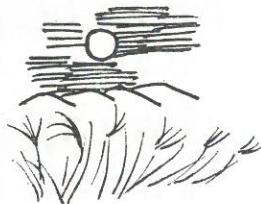
ことしの私大図書館大会は7月24日から同志社大学で開かれた。前日、23日は個人見学日に当てられ、私は京都府立総合資料館を尋ねてみた。博物館と図書館を兼ねたようなこの建物のうち、主に図書館を見学した。蔵書は35万冊、NDCによって分類され、大部分が和書で、やはり0～3門と9門が圧倒的に多かった。大閲覧室は座席数400。外には木立に蟬時雨。比較的利用度の高い図書が開架的に置かれ、利用度の低い図書が書庫に置かれるとのこと。雑誌に関しては所蔵タイトル数が、和雑誌8千、洋雑誌100で、所蔵目録はB5判の冊子体のものがあり、よく利用されていた。

翌日から大会に入り、まず総会等事務手続の後、オーチス・ケリー同大教授の講演となった。マサチューセッツ州、アームスト大を中心にした図書館の話で面白かった。25日は研究会で、三人の方の発表があり、特に大阪工大の北氏の話に興味深く聞いた。洋雑誌購読における諸問題の指摘とその対策、書店との取り決め事項などはとても参考になった。皇学館大の野間教授の板本についての講演も内容がとっつきにくかったが興味深く聞いた。最終日26日は建仁寺などを見学したが、建仁寺では、禅関係の古い書物が展示された。

最後に同志社大学の図書館についてであるが、照明や机などに我が館と似かよった面が多く見られ、書庫のスペースではかなりの余裕が見られた。この点に関しては大変うらやましい気がした。雑誌なども、寄贈480タイトル、購入350タイトルと以外に少なく、本当によく使われるものだけを買っているの、学生の利用度はすこぶる高いという話であった。また、各研究室でも相当のタイトルを購入していて、主に洋雑誌は研究室で管理しているということであった。もうひとつ、雨の日の傘の始末は、

ボックスを使っているが、まにあわない時はビニール袋を使うとのこと、いづこも同じように苦労している。

(小林)



## 参考図書の解題

—統計関係—

### ①国際連合統計局編

#### 世界統計年鑑

原書房

統計について調べようとする場合、各国別の、または主題別の統計年鑑、白書、年報などがありますが、この図書はそれ等を網羅したもので、統計の国際比較に役立つ基本的な図書です。戦前に国際連盟から出された Statistical Yearbook of the League of Nations 「国際連盟統計年鑑」(請求記号350.9:K)がありますが、その戦後継続版として1948年以来発行され、当館にも所蔵されている「Statistical Yearbook」(請求記号350.9:K)の邦訳されたものですが、英文も併記されています。使われている資料は150以上の国または地域の統計関係機関が「年鑑」掲載用、またはそれに類する数字を提出したのものにもとづいて作られ、内容は世界の概括から始まり、人口、労働等の主題に分れています。使用する場合は、付記されている注、脚注や章の初めの説明を読んで下さい。残念なことに欠号が多いため、国連その他の機関で国際統計を要約した「国際統計要覧」(請求記号350.9:S)もみて下さい。

(請求記号350.9:K-2)

### ②総理府統計局編

#### 日本統計年鑑

日本統計協会

この年鑑は、「わが国の国土人口、経済、社会、文化などのあらゆる部門にわたる基本的な統計資料を総合的かつ体系的に集録」したものです。この図書の前身は明治15年、太政官統計院によって「日本帝国統計年鑑」(請求記号350.591:D)として59回にわたって刊行されたもので、の内閣統計局によって編さん、昭和16年から8年間のブランクののち、昭和24年「日本統計年鑑」として復刊したものです。巻末には国際統計、事項索引があります。また、この統計に使用された各官庁、政府機関、その他で出された統計調査書、報告書は統計資料名を知ることにも役立つでしょう。

(請求記号351.059:S)



Baillstein Handbuch der organischen chemie

ロシア生れのドイツ人化学者 Beilstein, Friedrich Conrad (1838~1906) は、その著書 Handbuch と共に、有機化学史上あまりにも有名である。彼はその書物の第1版(1880~82)で、複雑な有機化学を秩序づけ、15,000もの物質の解説をした。彼は更に第2版(1886~90)と第3版の主要部分とを手がけたが、その仕事は彼の死後も続けられた。そして第4版(これが Hauptwerk である)では、1910年までの研究が網羅された。その第1次補遺版では1919年までの研究が、更に、第2次補遺版では1929年まで、また、第3次補遺版では1949年まで、そして、現在第4次補版が刊行されているが、これで1959年までの研究が集大成される予定である。

それらは各々が29巻より成り、(Hauptwerk のみは31巻までである)その内容はみな共通して1~4巻:非環式化合物, 5~16巻:単素環式化合物, 17~27巻:複素環式化合物, 28~29巻:索引, となっている。Chemical abstracts が発表された研究論文の速報を目的としているのに対して、Beilstein Handbuch は有機化学分野の各物質についての研究の発展過程を整理し体系化することを目的としている。各々の化合物についての記載の仕方は 1:名称, 2:分子式, 3:構造式, 4:歴史的沿革, 5:所在, 6:生成, 7:製法, 8:物理的性質, 9:化学的性質, 10:生理作用, 11:用途, 12:分析法, 13:付加化合物及び塩, 14...その他, の順になっているが、勿論その中で不必要なものは省いてある。

有機化学研究者はその研究テーマの物質について、Beilstein Handbuch をひもとくことは不可欠とされており、自然科学系の図書館には必要なものであるが当工学部図書館では主版と第1次、第2次補遺版が白山図書館から移管された後、第3次補遺版を購入していたが、資金の都合がつかなくなって昨年に中止するの止むなきにいたったが残念なことである。年間発行回数は十数冊、一冊の値段が20~30万円である。これは開架閲覧室にある。請求記号 437.036:BF, 発行所は Springer である。

1 館内でマイクを使用する時は、チャイムを鳴らして欲しい。また音量も適当に調節すべきだと思います。(7月19日)

2 最近閲覧室内で椅子を2~3脚独占して、昼寝をしている学生をよく見かけます。これは、他の利用者に迷惑なばかりでなく、端で見ても甚だ不愉快です。又、相変らず閲覧室内でのおしやべりがなくなりません。ひどい場合には、自分でも注意するのですが、いやな顔をされて面白くありません。これらの問題を解決する為に、できましたら1~2時間おきにでも係員を巡回させるようにして頂きたいのですがいかがでしょうか。(7月11日)

(係から)

図書館では投書を通じ、利用者の皆さんが感じている諸問題の解決に日頃努力しています。例えば(投書1)、必要時の館内放送は、チャイムを鳴らしながらなるべく勉強の迷惑にならないよう心掛け、音量にも十分注意しています。しかし、聞きとり方は各人各様でなかなか難しいものがあります。今後、さらに静かななかに効果のある放送になりますよう心掛けていこうと思っています。又、館内利用者の皆さんにお願いと、ご協力をもとめているものがあります。つまり、閲覧室での私語を含め、他の利用者の迷惑となる行為は絶対に慎んでもらわなければなりません。殊に、夏季休暇終了直後は気がゆるみがちになり、例えば(投書2)、「椅子を2~3脚独占して昼寝をする」といったような苦情を多く耳にするようになります。このような閲覧室利用の姿勢については、皆さんの自覚と協力なくしては解決できません。図書館も環境保全に努力していますが、皆さんもお互いに注意し合って、よりよい図書館づくりにご協力をお願いいたします。

なお、「巡回」の件に関しましては、すでに図書館ニュース(No. 28)に掲載しておりますが、性質上、多種の問題が含まれ、上記の投書とは別の意味で難しいものがあります。

直接に係の「巡回」を必要としない、明るく静かな勉強しやすい環境づくりを、重ねてご協力を要望いたします。

- 6月25日 白山連絡会
- 26日 図書館情報学セミナー研修員・早稲田司氏(埼玉大図書館整理係長)外3名来館, 館内見学後意見交換
- 27日 視聴覚室企画, 第3回映写会(於第3閲覧室, 上映作品「すばらしき風船旅行」「冬の朝」)
- 7月2日 図書館合同委員会一後藤館長就任あいさつ, ならびに今後の図書館運営について意見交換
- 5, 12, 19, 26日 第4回館内研修会, 井出翁社会学部教授「参考業務について」
- 8日 私大図書館協会「閲覧分科会」
- 10日 東京都より, 本学創立者井上円了先生の旧蔵書21, 195冊=41, 585巻(円了文庫または哲学堂文庫と呼ばれ, 昭和28年11月より, 都より本学が貸与を受けていたもの)の無償譲与を受ける。
- 14日～19日 青葉学園短大図書館学課程履修生6名を実習生として受入れ指導
- 15日 図書予選(於栗田書籍販売KK)
- 16日 白山連絡会
- 21日 図書選択委員懇談会一予選図書の選択および学部共通(学際)予算の執行について意見交換
- 21日～26日 「私立短大図書館担当者研修会」(於金沢女子短大, 生野, 嶋田, 日野参加)
- 24日 本館所蔵「酒顔童子絵巻」(貴重書), 国立劇場歌舞伎10月公演「大江山鬼神草子」のポスターなどに掲載を承認
- 22日～27日 私大図書館協会第36回総大会(於同志社大学, 高橋課長外4名参加)
- 29日～31日 文化庁「著作権講習会」(於道府県会館, 小島・伊藤参加)
- 8月6日 図書館本館の5階増設を理事長・学長に申請
- 19日 第5閲覧室の椅子, 新型に取換え
- 25日～27日 私立大学図書館協会「逐刊分科会夏季合宿」(於桜美林セミナーハウス, 栗沢参加)

特集号・原稿募集のお知らせ

『コスモス』も本年度は, Vol. 10 となり, 『図書館ニュース』として, 昭和41年に発行されて以来, 10年経ちました。『コスモス』は, 図書館に関するその時々話題, お知らせ, 新刊書の紹介新入生に向けての先生方の推選図書の紹介などを内容としておりますが, 日頃この『コスモス』を読んで下さる皆様方, 特に学生の方々の<声>を聞かせていただく機会がほとんどありませんでした。また, 新図書館になりましてから, 建物や設備に関する事は投書箱などでご意見をいただいておりますが, 図書館に入ってすぐ目に映る目録, 貸出などの閲覧, 参考・雑誌, 視聴覚の事などなど, 図書館全般に関する<声>も合わせて聞かせていただきたいと考えております。

そこで, 次号 (Vol. 10, No. 3) は, このための特集号としたいと思いますので原稿を下記の要領で募集いたします。ふるってご応募下さい。尚, 応募いただきました原稿はお返しいたしません。また, 応募原稿多数の場合は編集者の方で選択させていただきますので, ご了承下さい。

I テーマ

- (1) 『コスモス』について
- (2) 図書館に望む

II 枚数

400字詰原稿用紙2枚程度

III 締切日

昭和50年12月15日(水)

IV 提出先

閲覧カウンター

訂正

前号 (Vol. 10, No. 1) を次のように訂正いたします。

訂正箇所

- P 4 右下から4行目 time leg を time lag  
 P 5 左上から7行目 溪声台を鶏声台  
 P 7 右下から8行目 Ahstraits を Abstracts